

## 「水槽の中の水が濁らないように

## いつも気を付けて きれいにしています」

### 保護者の皆さまへ 思春期の生徒達と生活して思う事

令和元年度第1学期が終了しました。この半年の期間、3年生はすばらしいリーダーシップを発揮しました。2年生は中堅学年の自覚が顕著に表れ、とても嬉しく思います。1年生はすべての取り組みが初めての事ばかりで、かなり疲れたのではないかと思います。その中でも少しずつ大人びてきました。しかしながら、これはあくまで集団の姿として私が感じている事であり、生徒一人一人は、様々な思いを持ちながら、学校生活を送っている事でしょう。

仙台市内で第2番目の大規模校である長町中学校には、約850名の生徒が在籍しています。学校のどこにいても大人数の生徒達がいて、活気があり、様々な事に意欲的に、かつ自主的に取り組む生徒達が多い事は大変すばらしい事ですし、嬉しい事です。これだけの人数がいれば、様々な個性があり、様々な価値観があり、ご家庭で培われてきた文化があり、まさしく多様性の渦の中で生徒達は生活しています。様々な関わり合いや気付きがあり、他の学校では味わえない充実感があると思います。しかしながら、この大人数の中で他者と比較して打ち拉がれたり、自己肯定感が低下したり、個性を発揮できず悩んだり、不安が大きくなる事もあると思います。人が多ければ多いほど喜びや嬉しさと同じように煩わしさや苦しさも増す事があります。

私が長町中学校に赴任する前に勤務していた中学校は、全校生徒が140人前後でした。何をするにも同じメンバーであり、それは小学校から9年間変わりません。いくらクラス替えをしても同じメンバーも多くいます。部活動や委員会、ボランティア活動でもほぼ変わらぬメンバーです。互いの事がよく分かっている長所もありますが、知られたくない事も自然と知られているという状態でした。私は、「ずっと同じメンバーで息苦しいだろうな」と思っていました。もし、この学校にあと100名程度の生徒がいれば、随分と人間関係も広がり、楽になるだろうなとも思っていました。そのような中で、彼らなりの生き方を見つけ、人との折り合いのつけかたを学びながら、中学校を巣立っていきました。彼らは今、元気に学校生活を送り、時々近況を伝えてくれます。

長町中学校は、以前勤務した学校の生徒の約7倍の生徒がいます。苦しい時もあると思います。否が応でも比較してしまう生徒の数も増えてしまいます。「あいつはどうして自分より〇〇ができるのだろう」「どうして勉強しても追いつけないのだろう」「スタメンに入りたいのに数が多すぎて・・・」「〇〇委員会に入りたかったのに・・・」「自分とは価値観の違いすぎる人が大勢いる。」悩みも倍増する時もあると思います。

今の時代は、生徒数が少ない学校には少ないなりの悩みがあり、多ければ多いなりの悩みがあると思います。それはひょっとすると私達が若かった頃も同じだったかもしれませんが、生きている背景や環境があまりにも違いすぎます。現代を生きる生徒達は、私が若い時代を過ごしたような誰にも負けないような強さを求められたり、自分の技術や技量を気力や体力でカバーしようとしたりする根性論が広がった時代には生きていません。強さや何かに負けない事を求められた私達は、何も分からないまま、「受験戦争」という名の競争に巻き込まれ、それをいつの間にかくぐり抜け、生きてきました。テレビでもスポ根ものが流行りました。今の時代には考えられないシーンも普通に共感できていました。それなりの逞しさも身に付けました。

そのような中で、自然とその時代の処世術を身に付けた私達は、今の世代にもそれを押しつけようとして失敗する場合があります。体に染みこんだ価値観を新たにするには時間がかかりますね。

難しい時代になりました。社会全体の閉塞感もあります。ネット環境が整い、良い面も多くありますが、匿名性の高いバッシングや詐欺まがいの行為も増えました。その犠牲が一番弱い思春期世代に襲いかかります。匿名性の中傷に怯えたり、一方で、自分でも知らず知らずのうちに同じ事をしてしまったり、楽しんでいたつもりが、いつの間にか被害を受ける事になってしまったりと。

この3年間がとても成長する時でもあります。息苦しい思春期でもあります。長町中学校の生徒を見てみると、本当に素晴らしく、感動する場面が多くあり、校長として嬉しい限りですが、実は悶々として苦しんでいる生徒も多くいると思います。しかし、もう少しすると大きく世界が広がっていく可能性もあります。

先日、三桜高校の演劇部からご招待を受け、練習を見学してきました。本校の生徒達は高校生の堂々した姿に感動したようです。私も同様でした。高校1、2年生なので、中学生と年齢もあまり変わりません。しかし、とても大人っぽく、自主的に自分達らしく個性を發揮し、生き生きと活動していました。注意しあう場面も遠慮がありません。私は見ている喧嘩にならないかハラハラしていましたが、意見をぶつけ合い、よりレベルの高い演劇にしようとする話し合いは、中学生の様々な部活動の域をはるかに超え、これこそが自分達で身に付けようとしている強さだと感じました。

本校の生徒が最後に、「どんなところに注意しながら活動していますか？」と高校生に聞いていました。すると部長さんが「**水槽の中の水が汚れないように、いつも気を付けてきれいにしています。**」と話してくれました。「**私達のこの演劇部という一つの大きな水槽は、互いに理解しようとしなければ気持ちが汚れてしまう。だからいつも話し合い、気遣い合い、高め合って、きれいにしています。**」とても感銘を受けました。わずかな年齢の差でこんな事が言葉で表現できるのかと嬉しくなりました。そして、私に次のような話をしてくれました。「**校長先生、生徒さんに伝えてください。もめ事やトラブルが多い集団は、絶対に強くなれません。なぜならその弱さの原因を自分ではなく、後輩や友人、先生に向けてしまうからです。自分の努力の足りなさを、人に向けている限り部活動は絶対に強くなれません。それよりも無我夢中で打ち込んだ方がいい。私も今になって分かった事です。早く気が付いた方がいいです。貴重な時間を無駄にしないように。**」たった1、2年の年齢差でこれ程の成長があり、人生観も世界観も変わっていくのですね。

長くなりました。本日、お子様が通信票を持ち帰ります。通信票の学習の記録は五段階で示されています。1年生は初めて五段階の評定を見る事になります。ご家庭での教育方針があるとは思いますが、通信票を持ち帰る生徒の気持ちは、複雑だと思います。どうかお子様のこれまでの頑張りをお認めいただき、1学期の生活を終えて帰宅した事にも価値を見いだしてあげてください。

1、2年生の生徒達も、そして3年生の生徒達は特に、これから数値や数字に悩まされ、悶々とした日が続くかもしれません。どうかお子様方をこれまで同様お認めいただきながら、寄り添い、よりよい進路選択が出来るように見守ってあげてください。私達もそうしたいと考えています。保護者の方々の希望どおりになっても、そうでなくても、もしも生徒達の希望どおりになっても、そうでなくても、彼らはこれからの長い人生を生きていく大切な存在であり、あと少しの時間で高校生として、社会人として、世界を広げ、何かをつかんで歩み出します。その手助けをしながら、彼らが自立していける事を信じましょう。「人間としてどう生きるか」それを彼らが意識して考えていく事も進路に向き合う事につながります。私が見た三桜高校の生徒達が、自分達なりに身に付けようとしている今の時代に適した自発的で協同的な力や強さを、彼らも身に付けていく日がもうすぐやってきます。彼らを見てみると、その力がすでに備わっているようにも感じます。

2学期また、長町中学校の素晴らしき生徒達と一緒に生活できる事を楽しみにしております。

